

特別養護老人ホームにおける持ち上げ介助回数の低減

施設名 特別養護老人ホーム ケアポート板橋 ・ 部署 特養部門、看護部門

サークル名 ケアツールイタバシ ・ 発表者 介護職員 なかい まきむね 中井 政宗

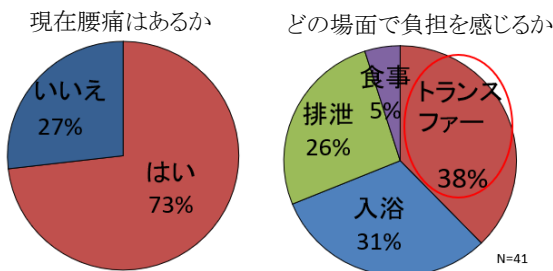
1.はじめに

当施設は東京都板橋区に位置し、特別養護老人ホーム(105床)、ショートステイ(15床)計120床を有し(4フロア)平均介護度4.1の施設である。「ケアツールイタバシ」は特養と看護の中から選出されたTQM委員により構成。

2.テーマ選定理由

仕事による腰痛を緩和するべく2013年厚生労働省より予防対策指針(介護、看護等においては福祉用具を導入する等の省力化を行い、労働者の腰部への負担を軽減する)が通達されているが、実際は人力に頼った介助を行っているのが現状である。職員に実施したアンケート結果によると(図1参照)腰痛を抱えている職員が多く、トランスファー(持ち上げる介助)に負担を感じていた。また平成27年度医療の改善活動のテーマ「褥瘡発生及び再発件数の低減」及び平成29年度のテーマ「皮下出血事故件数の低減」の活動から、褥瘡発生・皮下出血等を減らすには持ち上げない、つかまない介助を行う必要があることが分かっており、PDCAを回す意味でも今回のテーマを選定した。

図1 職員アンケート



具体的にトランスファーに身体的負担がかかっていた

理念

ケアポート板橋は、ご利用者の尊厳を大切に質の高いチームケアを提供することでその人らしい生活を支援し、地域の要となれる多機能施設を目指します

【テーマ選定のマトリックス図】

評価点 ○5点△3点×1点

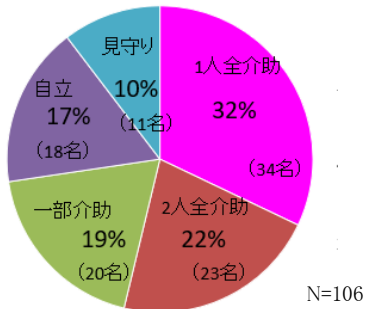
評価点	ウエイト		施設理念 CSの向上 業務改善の向上 サービスの向上	テーマ 取り組みたい 評価項目	ウエイト付け						評価点	総合点
	×1	×2			×2			×1				
					改善の要求度			解決可能				
10	○	○	持ち上げ介助回数の低減	○	○	△	○	△	○	44	54	
8	△	○	爪切りや耳掃除を実施する	○	△	○	○	△	△	42	50	
8	△	○	食前口腔ケアを行う	○	△	○	○	△	△	42	50	
6	△	△	フットケア、水虫予防をする	○	×	△	○	△	×	32	38	

3.活動計画

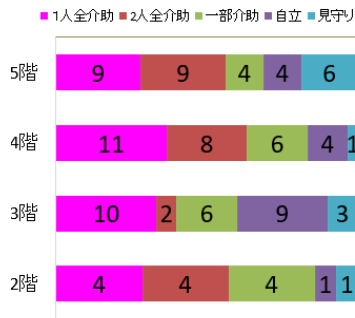
なぜ	何を	誰が	いつまで												どのように	前回の反省と取り組み
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	手法			
現実を調べる	現状把握	高橋	→	→											層別グラフ	前回目標準易度が高く、達成できなかった。QCC手法を使って根拠に基づいた目標設定をする
なぜ悪いか	要因解析	中井			→	→									特性要因図	
どうしたら良いか	対策	相原					→	→	→	→					チェックシート	
持続できるか	効果確認	香庭									→	→			グラフ	
標準化	歯止め	首藤											→	→	チェックシート	
	反省と今後の取り組み	山城												→	→	ブレインストーミング等

4.現状把握

移乗介助割合



各フロア別移乗介助割合



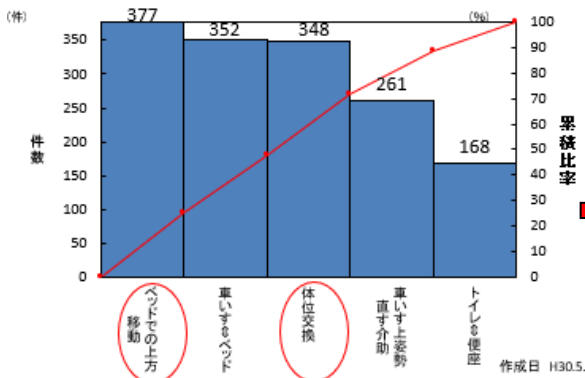
移乗介助の割合は

全介助が**全体の54%**

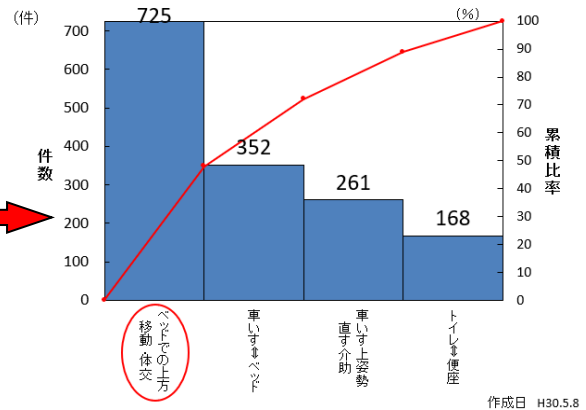
(2人介助が22%)であることが分かった

ベッド上での持ち上げ介助回数は(上方移動・体位交換)1日725回であり一番多いことが分かった

特養1日(24時間)における持ち上げ介助回数のパレート図



場面別持ち上げ介助回数パレート図

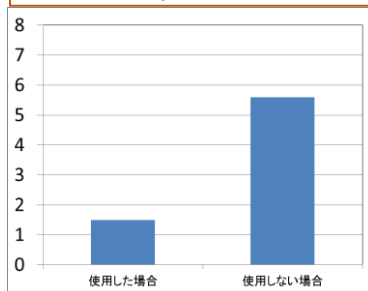


スライディングシートの効果

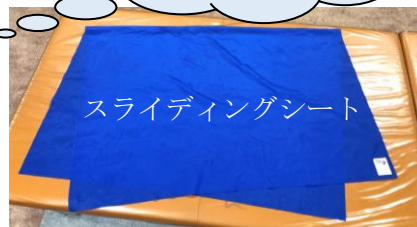
「スライディングシートを肩甲骨下と臀部下に挿入し介助者が臀部を押す介助」と「スライディングシートを使用せず右手を被介助者の肩に左手を臀部に挿入し上方へ引き上げる介助」を比較して表面筋電図測定を行った結果、使用した場合の自覚的作業強度は 1.5 ± 1.0 、使用しない場合は 5.6 ± 1.4 であった(図1参照)。スライディングシートを使用した場合は、使用しない場合と比べて、上方移動介助時の介護者にかかる身体の負担は4分の1減る事が分かった。

【図1】自覚的作業強度

(Borg CR10 scale)



身体にかかる負担は4分の1減る



参考文献

ベッド上仰臥位での上方移動介助における福祉用具の有効性に関する研究
公立みつき総合病院リハビリ部、県立広島大学保健福祉学部

スライディングシート使用人数

上方移動や体位交換の際、皮下出血や褥瘡予防の為に**持ち上げない、つかまない介助を行う事**が必要

- ➡ スライディングシートを使用する必要がある
- ➡ スライディングシートを使用している職員は41名中2名しかいない(39名が使用していない)

スライディングシート の使用方法

腕を伸ばした際に丁度拳がベッドに着く位置にベッドの高さを合わせる

スライディングシートを半分に折り、シートを引き込む

ご利用者の手を前で組む
ご利用者の膝を立てる。頭はシート上、足はシートから出す

膝を曲げ、足の下に腕を入れご利用者のおしりから腰を持つ



14 秒



20 秒



10 秒



3 秒

足を進行方向に開き、腰を落とした状態で力を入れず、全体を進行方向に動かすようにして滑らせる

スライディングシートを抜く。(重なっているシートの下側をご利用者の体幹の中心部に向かって引き寄せ集める)

ベッドの高さを戻す



8 秒



15 秒



14 秒

5. 目標設定

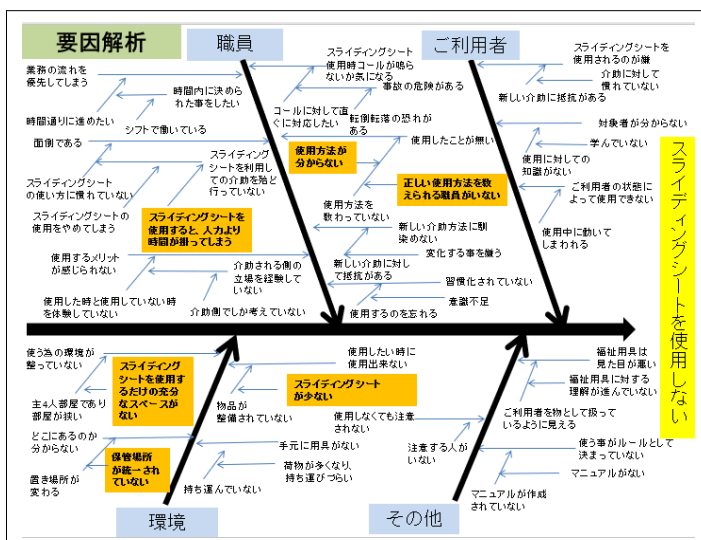
何を	ベッド上における上方移動（排泄介助後）と体位交換の際にスライディングシート不使用職員を
いつまでに	平成 30 年 11 月末までに
どうする	39 名⇒0 名とする

根拠 1 日の中で持ち上げる回数の多い上方移動、体位交換を持ち上げずに行う為にスライディングシートの使用を浸透させる事＝不使用職員をゼロにする事を目標とした

チェック方法

スライディングシート使用チェック表を使用
使用した職員の名前を記載し、誰が使用したか分かる様にする

6. 要因解析



要因解析まとめ

- ① スライディングシート使用方法を教えられない職員が少ない
- ② スライディングシート使用方法が分からない
- ③ 人力で介助するよりも時間がかかってしまう
- ④ スライディングシートを使用するだけの十分なスペースがない
- ⑤ シートの数が足りない
- ⑥ 保管方法が統一されていない

【重要要因検証】 6点の重要要因を検証した結果、全ての重要要因が真の要因と判定した

重要要因	検証	結果	判定
① 教えられる職員がいない	各フロアに使用方法を教えられる職員がいるか調査	スライディングシート使用方法を教えられる職員は0名であった	真の要因
② スライディングシートの使用方法が分からない	職員41名に福祉用具に関するテストを実施	福祉用具に関する知識がない職員が半数以下であった 	真の要因
③ 人力で介助するよりも時間が掛かってしまう	スライディングシートを使った場合と使わない場合の時間を計測	シートを使った場合と使わない場合と比較して1分程度の違いがある事が分かった 体位交換 使用しない場合 43秒 使用した場合 1分46秒 上方移動 使用しない場合 38秒 使用した場合 1分24秒	真の要因
④ スライディングシートを使用する十分なスペースがない	実際の居室スペースを測定した	 <p>前後に足を開き、重心移動できる幅(130cm位)が必要であるが実際のスペースは半分に満たない事が分かった</p>	真の要因
⑤ スライディングシートの数が足りない	使用できるスライディングシートの枚数を調べた	使用できるスライディングシートは3枚しかないことが分かった 	真の要因
⑥ 保管方法が統一されていない	全フロア(2・3・4・5階)の保管場所を調査した	フロアごとに保管方法が異なっていた	真の要因

7.対策の立案

10点以上を採用とした為、①～⑥の対策案を採用

重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	効果	コスト	時間	点数	採否
① 使用方法を教えられる職員がいない	使用方法を教えられる	使用方法を教えられる職員を育成	外部研修に行き資格を取得	○	△	△	11	採

② スライディングシートの使用方法が分からない	正しい使用方法を理解する	使用方法を学ぶ	勉強会を行う	○	○	○	15	採
		福祉用具の使用方法を職員間で共有	マニュアルを作成	○	○	○	15	採
			動画マニュアルを作成	○	○	○	15	採
③ 人力より時間がかかる	福祉用具の使用に慣れる	福祉用具を使用する機会を増やす	職員間で練習する機会を設ける	○	○	△	13	採
	時間を短縮する	シートの二つ折りがすぐにできる	シートに目印をつける	○	○	○	15	採
④ 居室スペースが足りない	スペースを確保する	ベッドを斜めに移動する	床に目印をつける	○	○	○	15	採
⑤ シートの数が足りない	必要な枚数を確保する	シートの数を増やす	購入する	○	△	○	13	採
⑥ 保管方法が統一されていない	保管方法を統一する	一目で保管場所が分かるようにする	専用のシートBOXを用意する	○	○	△	13	採

(○5点 △3点 ×1点)

8. 対策の実施

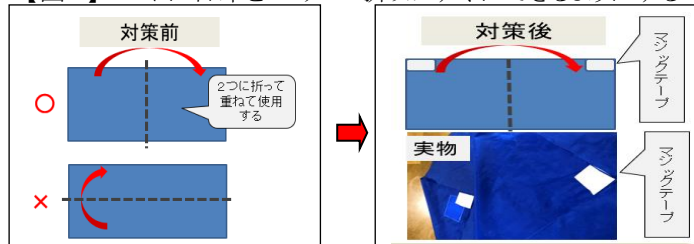
	誰が	いつ	何を	どこで	どうする
①	介護職員	7/18	人に教える事ができる職員を育成する為	日本ノーリフト協会	資格を取得【図1】
②	介護職員	9月末まで	正しい使用方法を身につける為	フロア	勉強会を行う【図4】
③	TQM 委員	8/22	スライディングシートのマニュアル	フロア	作成、配布
			スライディングシートの動画マニュアル		PCにて見られるようにする
④	介護職員	10月末	福祉用具の使用に慣れる為	フロア	職員同士で練習する
			二つ折りができるようにシートに		目印をつける【図2】
⑥	TQM 委員	9/26	ベッドに移動する場所に	フロア	目印をつける【図3】
			シートを	フロア	購入する
⑧	介護職員	10/15	スライディングシート専用BOXを	フロア	用意する

【図1】資格を取得



教えられる職員を育成した

【図2】シートに目印をつけ2つ折りがすぐにできるようにする



どこを合わせたら良いか分からず
20秒もかかってしまっていた

重ね合わせるところにマジックテープをつける事で、二つ折りにする時間は0秒

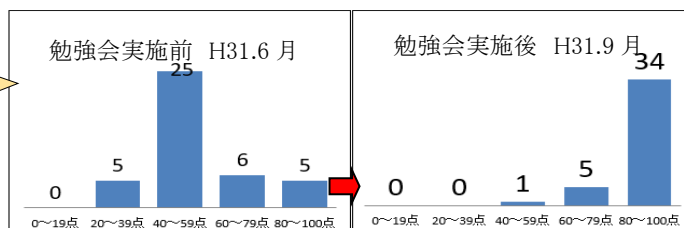
【図3】床に目印をつける



ベッドを移動させる場所の目印をつける事で、移動時間の短縮につながった

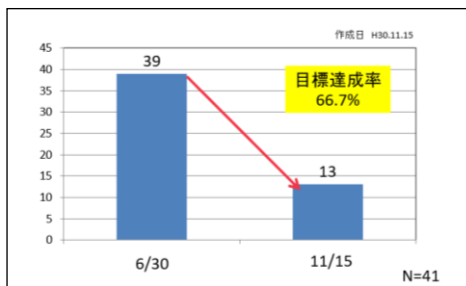
【図4】

勉強会実施前と実施後で福祉用具に関するテストを実施。技術の向上と共に、85%の職員が80点以上となり、知識が向上した



9 中間点検

【スライディングシートを使用していない職員の数】



39人から13人に減り目標達成率66.7%

目標には達していない為
再度要因解析、検証を行い、対策立案した

10.追加対策

(※現状把握・要因解析・対策立案を行っているが、省略する)

スライディングシート使用チェック表のチェック方法が分からない人がいて記載に漏れがあった



記入しやすいように使用チェック表を改善した

うまく使用する事ができないから使用をやめてしまう



1人1人评价を行い、優秀賞を決め表彰する

職員の意識不足



ポスターを掲示し、呼び掛けた

排泄介助時、荷物が多くなり持ち運びづらい

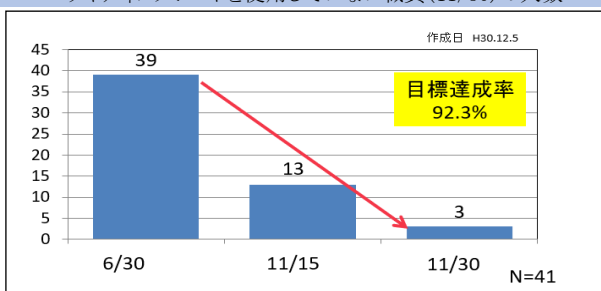


ワゴンを購入し、ワゴンに物品を乗せて移動する

11.効果の確認

スライディングシートを使用していない職員は39名から3名に減る 目標達成率は92.3%

スライディングシートを使用していない職員(11/30)の人数

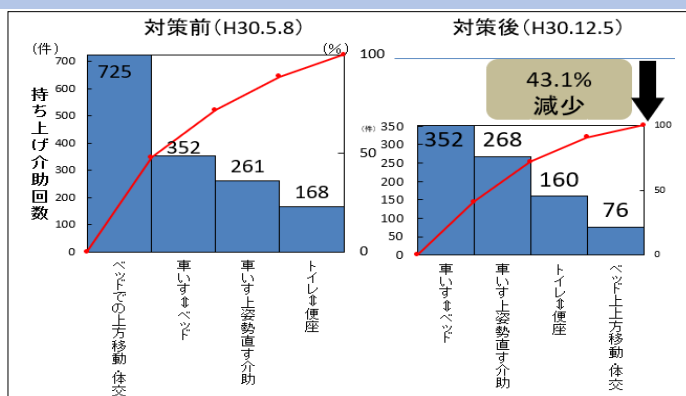


目標0名にわずかに及ばず目標達成率は92.3%

11月スライディングシート使用率(上方移動・体位交換)



特養1日(24時間)における持ち上げ介助回数のパレート図 比較

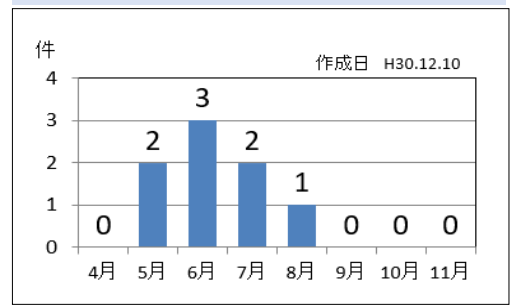


1日(24時間)におけるベッド上における持ち上げ介助回数は725回から76回に減り、対策後は90%減となった

12.波及効果

- ・職員同士で練習をする事で、職員同士のコミュニケーションが増えた。
- ・今まで介助時に「痛い」と言われていたご利用者がスライディングシートを使用する事で痛みと言わなくなった。
- ・ご利用者を抱きかかえなくなった事で、
活動期間中表皮剥離事故は0件となっている。
- ・新規褥瘡発生件数は、平成30年9月以降0件であった。【図1】
- ・同法人グループホームにて使用方法を指導し、
水平展開を行った。【図2】

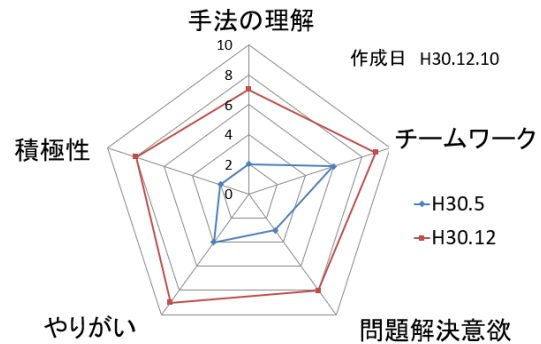
【図1】新規褥瘡発生件数



【図2】



13.無形効果



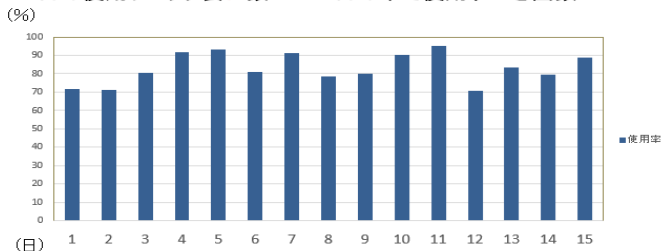
14.歯止めと定着化

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どのように
標準化1	スライディングシートマニュアル	統一した介助を行う為	介護主任	月1回	共有ファイル	その都度見直しをする
標準化2	福祉用具対象者リスト	情報共有の為	フロアリーダー	随時	各フロア	決定していく
教育	スライディングシート	対象利用者に確実に利用する為	フロアリーダー	月1回	各フロア	マニュアルを用いて指導
管理	福祉用具	正しく使用する為	フロアリーダー	随時	各フロア	数を確認、補充を行う

- ・平成31年1月1日～1月15日にスライディングシート使用率を調べた所70%を上回っており、取組後も定着して行えている事が分かった
- ・令和元年7月末にスライディングシートを使用していない職員の人数を調べた所、残り1名となっていた

H31.1月1日～1月15日 スライディングシート使用率

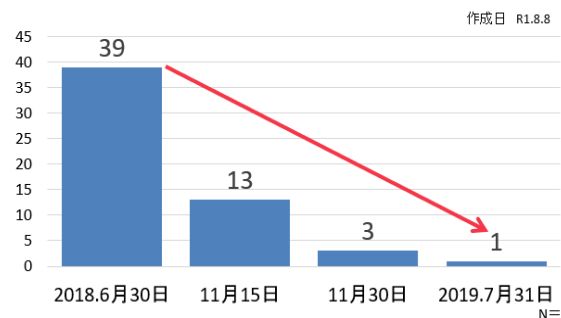
使用率の計算方法
1日の使用チェック表✓数 ÷ 1日の中で使用するべき回数 × 100 (%)



平成31年1月以降も継続して使用している

N=106

スライディングシートを使用していない職員の人数



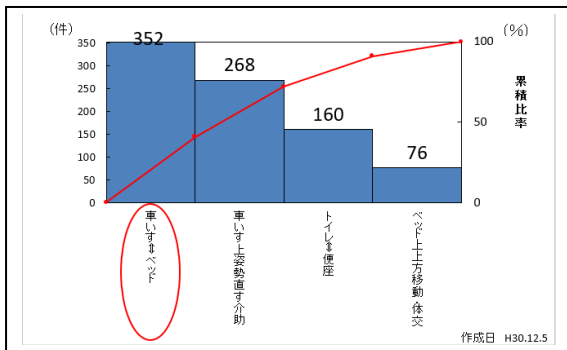
H31.7月末 使用していない人数は残り1名となっている

16.反省と今後の課題

	手順	良かった点	悪かった点	今後の進め方
P	テーマの選定	厚生労働省の腰痛予防対策指針に沿ったテーマであった	テーマ選定に時間がかかった	早期にテーマ選定を行う。委員会開始前にアンケートを配布する事の定着化
	現状把握目標の設定	現在の職員の介助方法と身体的負担を数値化し、把握する事ができた	アンケートの聞き取り方に不備があり、再リサーチする事になった	今後も継続していき、実施する
	活動計画作成	職員それぞれの役割が明確になった	計画通り活動ができなかった	今後もメンバーと協力しながら進めていく
D	要因の解析	細かく要因を解析できた	解析方法の理解に時間がかかった	より深く解析できるようにする
	対策の検討と実施	多角的アプローチができた スライディングシートの正しい使用方法を周知できた	指導に時間がかかった 対策の実施が遅れた	今後継続して勉強会を行っていく
C	効果の確認	スライディングシートの利用率があがった。中間点検でデータ収集、改善ができた	目標の数値を達成する事が出来なかった	今後も継続してスライディングシートを使用していく
	標準化と管理の定着	介助時にスライディングシートを使用する意識が高くなった。対象者以外に使用する機会が増加した	対策毎における標準化と管理の定着の表を作成できなかった	対策毎に標準化と管理の定着の表を作成する。 ベッド上のみならず持ち上げる回数を減らす取り組みを行う

2019 年度活動 “持ち上げ回数低減”をテーマに活動を継続

H30.12 特養 1 日における持ち上げ介助回数のパレート図



リフトリーダー養成研修に参加した



リフターを各フロアに導入。介護技術研究室を立ち上げ、教育できる職員を育成している。職員全員にリフターのテストを実施し、合格者から使用するようにしている。主に職員2人で抱えて移乗介助を行っているご利用者に実用化している



今後は移乗時に持ち上げる介助を行っているご利用者全員にリフターを使用するようにしていく

今後も、厚生労働省の腰痛予防対策指針に沿って、持ち上げない介護、ご利用者にとって安心できる介護を目指す